



JR浜松町駅北口下車徒歩4分
都営地下鉄大門駅B1出口下車徒歩3分

港区立エコプラザ

開館時間 9:30-20:00

休館日 毎月第4月曜日及び年末年始(12/29~1/3)

〒105-0013 港区浜松町1-13-1

TEL.03-5404-7764 FAX.03-5404-7765

<http://www.eco-plaza.net>

ecoplaza produced by Mainichi-Earthday

いきたくなるエコ。 エコプラザ

eco plaza
concept book
version 0

港区環境課地球環境係 TEL.03-3578-2495

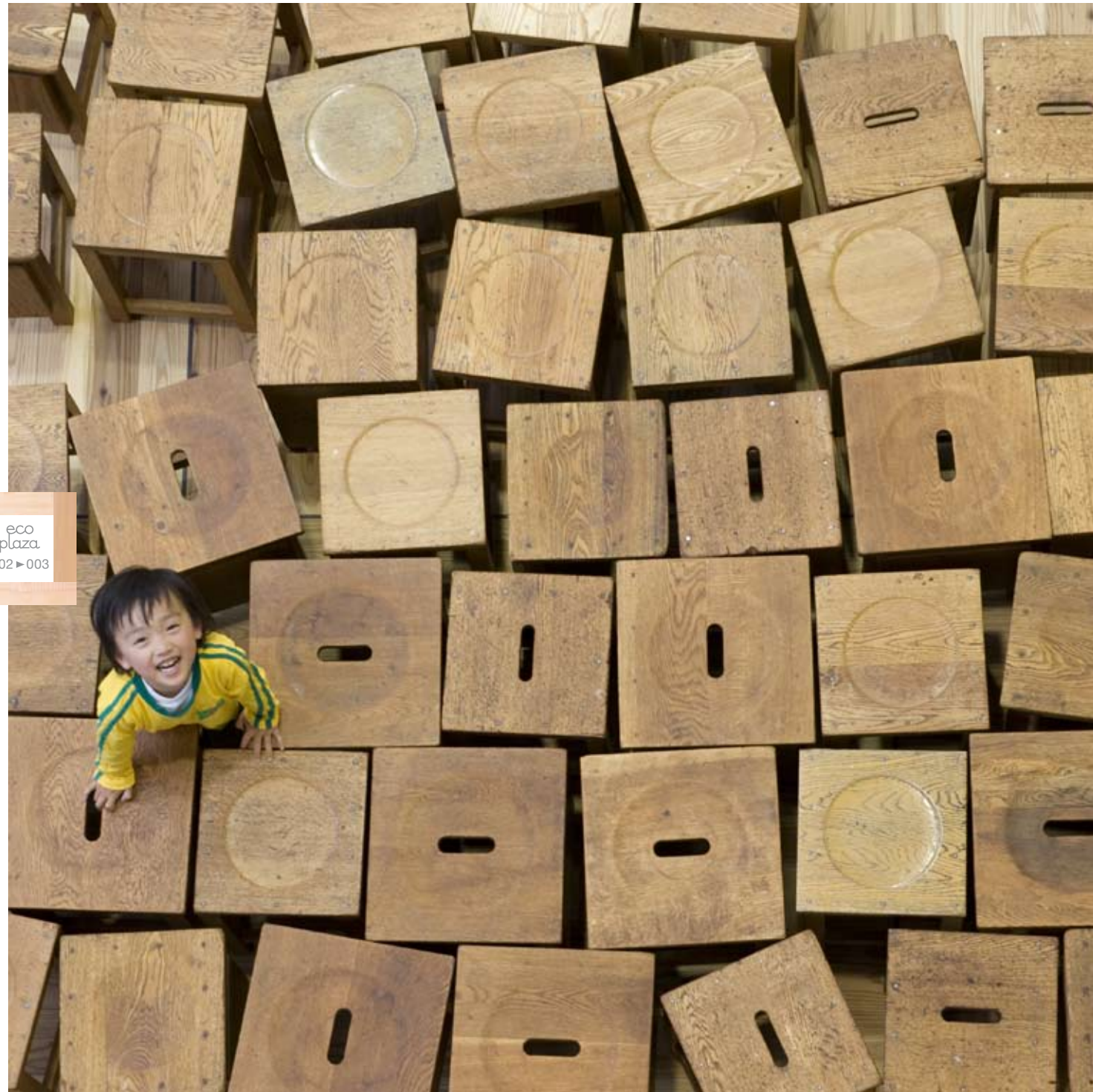
エコプラザの管理運営・企画制作

毎日アースデイ株式会社

千代田区一ツ橋1-1-1 TEL.03-3431-6057



© エコプラザのシンボルツリー「ミツマタ」。紙すき和紙の原料に。昔は、軒先に当たり前にあった木。CO2吸収能力も抜群。



eco
plaza.
002 ▶ 003

ハッピーじゃなければ 「エコ」じゃない。

NO HAPPINESS, NO ECO

地球環境はたいへんなことになっています。言うまでもありませんが、このまま温暖化に歯止めをかけられなければ、100年後の地球は人間の住める惑星ではなくなっていると言われます。極限の危機的状況にあります。ただちに行動を、変化を起こさなければなりません。もはや非常事態だ、温暖化と戦う覚悟でのぞまなければならない、と説く人もいます。たとえ、それが現実だとしても、戦うよりもっと有効なやり方があるはずです。「まなじりを決して」という姿勢ではなく、目を輝かせて取り組むエコでありたい。楽しくなければムーブメントは持続可能にならないと思います。むしろ、エコを知らなかった昔よりも、明るく陽気に上向きに。それが、エコプラザのめざす「エコ」のカタチ。未来に希望をつなぐハッピーが顔を出す、そんな場所でありたいエコプラザです。



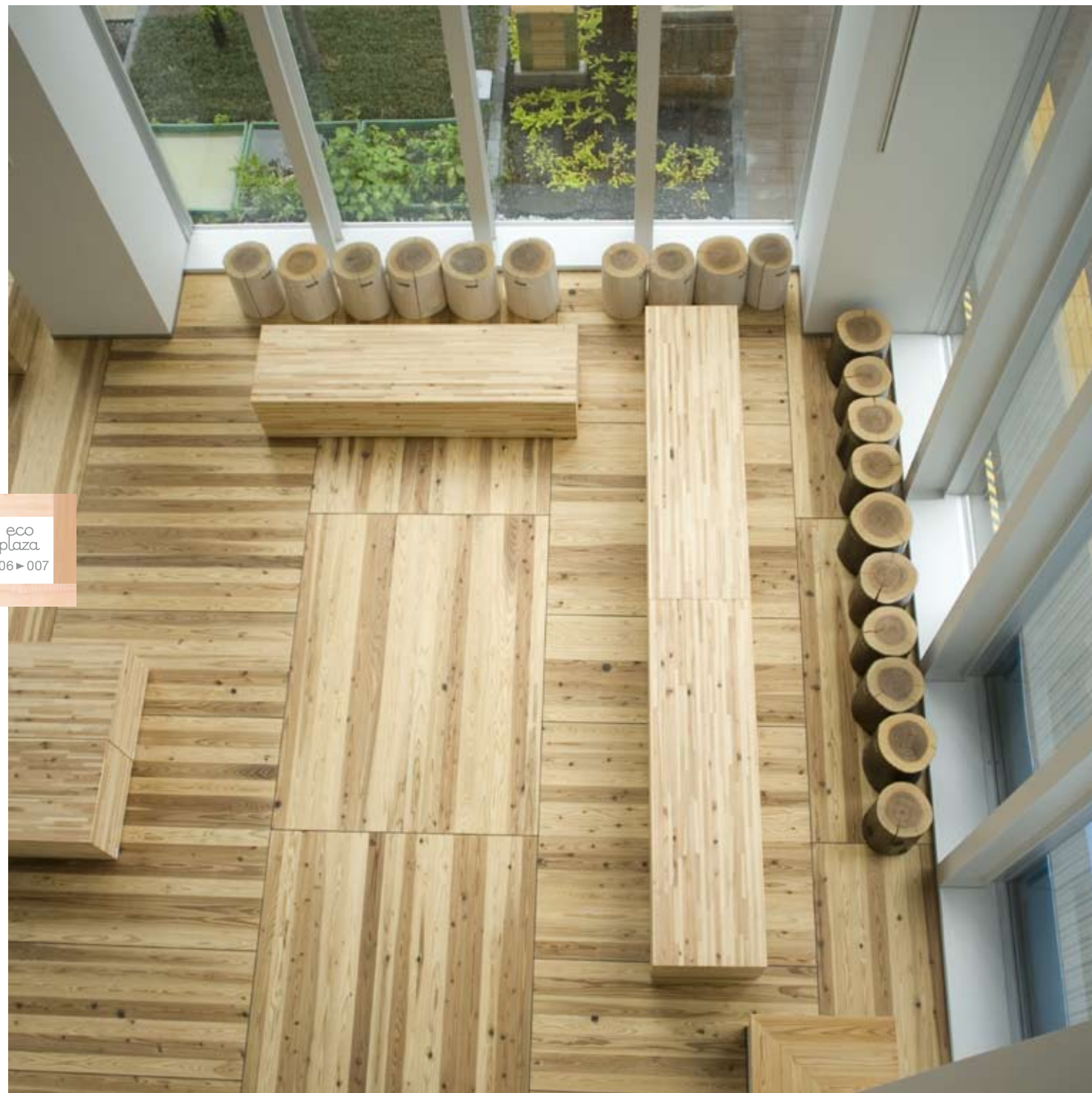
eco
plaza.
004 ▶ 005

アートじゃなければ 「エコ」じゃない。

NO ART, NO ECO

大事なのはわかるけれど、ちょっととっつきにくい。なんだかダサい感じ。多くの若者はエコをそんなふう捉えるでしょう。感受性の鋭い人ほどその傾向は強いかもしれません。たしかに、ある種の「エコっぽさ」はエコのイメージを悪くしたでしょう。でも、ほんとうのエコは、実はすごくカッコいい。自然界に元からあった造形物にまさるアートはないように。これから人の手になるアートも、きっとエコとともにある。大人も子どもも若者も、エコに目覚めることで、創造性と、芸術的な感性が刺激される。それが、エコプラザのめざす「エコ」のカタチ。ハッとさせられたり、ワクワクしたり。感動(ムーブ)からムーブメントが生まれる、そんな場所でありたいエコプラザです。

©写真は「ツリーアート」の模型(ツリーハウスクリエイター小林崇さん作)。



eco
plaza.
006 ▶ 007

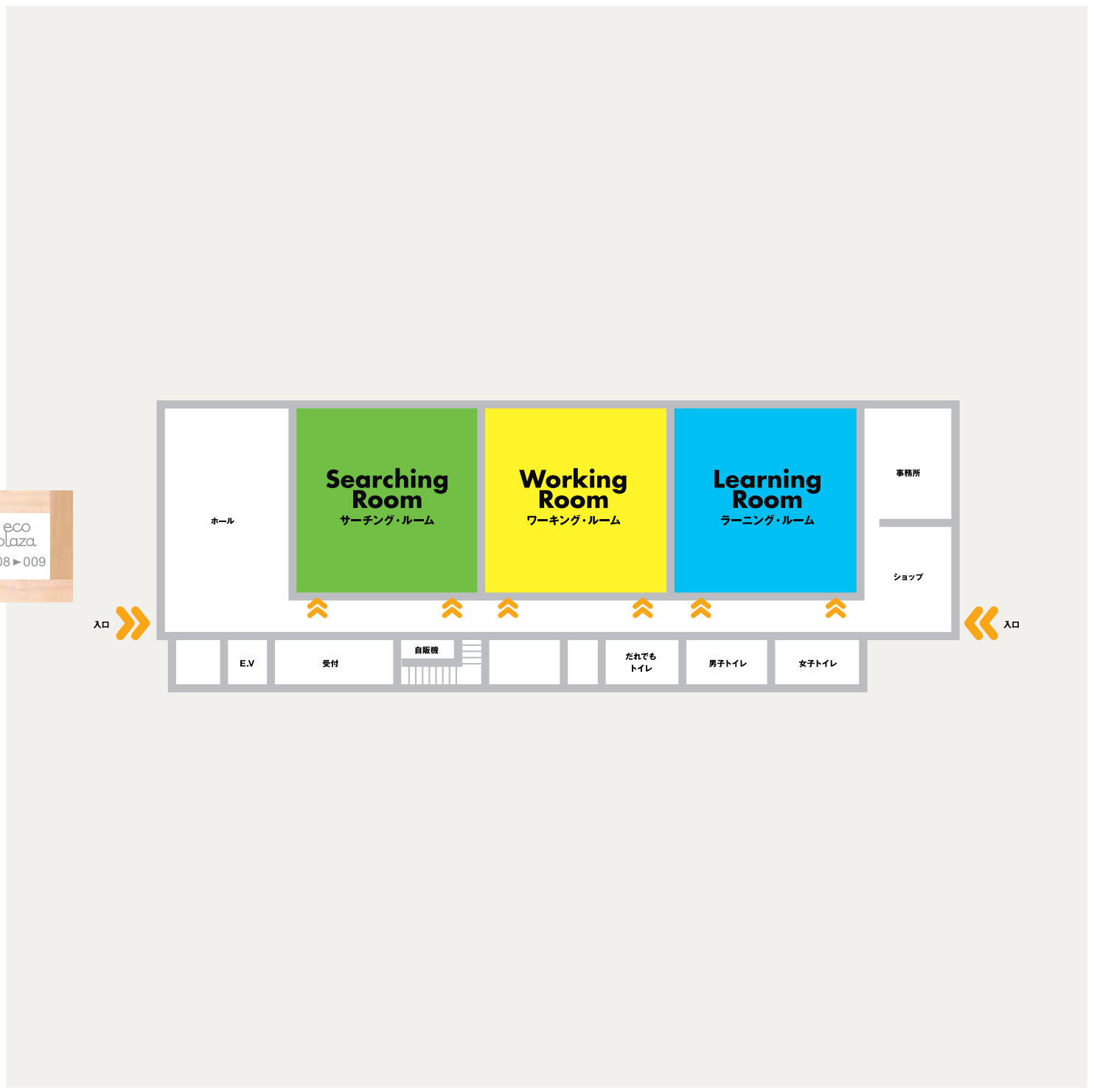
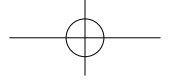
みなと区民の 森から生まれた 大きな木のハコ。

THE BIG BOX MADE OF
MINATO PEOPLE'S FOREST

2008年6月、環境学習施設・港区立エコプラザが生まれ変わりました。浜松町に出現した大きな「木のハコ」が、新しいエコプラザです。あきる野の「みなと区民の森」から切り出した間伐材をふんだんに使って、木の香りが漂う大空間ができました。スギのやさしい感触が、森の中にいる心地よさを演出します※。国内の間伐材をつかうことも大事なエコ。間伐をして森林整備がすすめば、CO2を吸収する元気な森がよみがえります。

このハコは、教室です。ライブラリーです。工房です。ギャラリーです。このハコが、地球温暖化防止に向かう地域の前線基地になります。上質のエコライフを身につけるさまざまなきっかけを提供する広場になります。根本的な環境問題の解決を導く学際的な気づきが得られる探求の場になります。世界でも類をみない最先端都市・東京の港区から世界に発信する、世界に誇る最先端のエコのハコ。環境問題をきれいに解き明かす玉手箱になりますように。

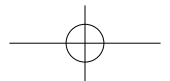
※ 木の床を傷めないように、ご来館の際はなるべくゴム底の靴でお越しください。



3つのエコのハコ。
THE THREE BOXES
OF ECOLOGY

大きな木のハコに足を踏み入れると、中もさまざまなハコで出来ていることに気づくでしょう。大きな木のハコは、3つのハコに分かれます。多目的に使用することができますが、それぞれ主な用途によって、「サーチング・ルーム」「ワーキング・ルーム」「ラーニング・ルーム」に分けられます。講義やワークショップや展示が有機的に展開する「機能するハコ」です。3部屋を分かつ仕切りを外して、全館をひとつの大きなハコにして大イベントスペースとすることもできます。また、3つのハコをまたがって大きな棚が大空間を貫き、そこにもたくさん、ぜんぶで200近い数の大小の木のハコが積み重なっています。

エコは○じゃなくて、エコは□だと思います。たしかに自然界に四角はありません。四角いハコは、人の手と知恵の象徴です。この中でエコをとらえます。人の力で、環境を取り戻したいという思いのあらわれです。また四角いハコは、人が集まる広場の象徴。この□の中で、共生について学びます。そして、四角いハコといえばプレゼントの象徴。本物のエコをあなたに贈ります。





ひと昔前なら、書店の片隅の決して大きくはないスペースに、「環境」本の類は一箇所に集められていました。いまはどうでしょう。大型書店をひとめぐりしてみると、時代の変化を目の当たりにすることになるでしょう。書店のいろんな棚のいたるところで「環境」に関する書物を見つけることができます。見てのとおり、「エコ」は社会をあまねく横断的に存在するようになりました。もはや「エコ」は、一部の専門家や意識の高い活動家に限られた狭いジャンルにとどまるものではありません。この流れは今後ますます顕著になるでしょう。また、そうならないと、地球環境の根本的な危機を回避することはできないでしょう。そんな学際的なエコを実感できる、エコプラザ・ライブラリーです。

サーチング・ルーム

SEARCHING
ROOM

「自習」のためのスペース。主にライブラリーの機能をにいます。
エコプラザがセレクトした選りすぐりの環境関連の本が棚に並びます。
地球環境をめぐるさまざまな情報のなかから、
自分のテーマを見つけて、じっくり探求してください。



「実習」のためのスペース。

主にワークショップ・体験学習の機能をにないます。

自分の手を動かして、身体で学べるプログラムを行ないます。

リサイクルのおもしろさや、木に触れるぬくもり。

地球とともに汗をかく喜びを味わってください。

ワーキング・ルーム

WORKING
ROOM

エコプラザには自動販売機が設置されています。自販機のどこがエコなの?と疑問に思われる方も多いと思いますが、まさに“環境学習教材”としてこの自販機を導入しています。通常の缶のドリンクを扱うわけではありません。エコプラザがお届けするのは、国産材を30%使用した「カートカン」です。飲めば飲むほど日本の森が守られる容器です。いただいた代金の利益分はすべてカーボンオフセットと森づくりの費用にまわし、飲むほどに「CO2フリー」を実現しつつ、さらに森を増やします。そして、飲み終わったカートカンは、ワーキング・ルームでリサイクル。カートカンは「紙すき」によって和紙に生まれ変わります。一本のカートカンから、日常的にエコストーリーを紡いでいきます。

© 写真は紙すき職人のロギール・アウテンボーカルトさん。



eco
plaza
014 ▶ 015

普遍性と必要性の高いプログラムはもちろん、港区ならではのセミナーも用意します。たとえば、多くの大使館が集結し在住者の1割が外国人という港区。英語が第二公用語と言っても過言ではありません。環境問題をとおして英語を学ぶ、英会話をとおして環境問題が身近になる。そんな環境英会話教室を初級から上級まで開講。また、教育熱が高いのも港区ならではの。昨今は、有名進学塾でも環境教育に力を入れる時代。小学生の頃からエコをとおして広い視野を学ぶことは、お受験と直結しなくとも子どもの将来を明るくするでしょう。そしておそらくは、老若男女の“オシャレ度”が高いのも港区の特長。新しいオシャレを楽しんでもらう感覚で受講できる、オーガニックライフの正統を学ぶ連続講座にも力を入れます。

ラーニング・ルーム

LEARNING
ROOM

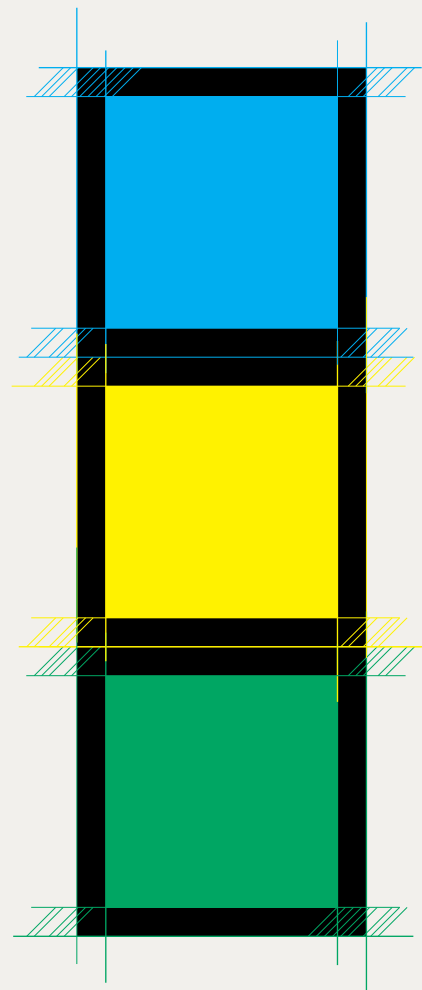
「研修」のためのスペース。主にセミナーや講演などの機能をにないます。プレゼンテーションルームであり、研究発表の舞台であり、対話をくりひろげる広場です。3つのうちでいちばん広いハコで、メッセージ性の高い展示も行ないます。



未来のための森の学校。
FOREST SCHOOL FOR FUTURE

あきる野の「みなと区民の森」で感じました。森の中に入ると、みんなが同じ目線になります。どんなにエライ人だって、無邪気に駆け回る小さな子どもと変わらない一人の人間なんだなあ、としみじみ思います。エコプラザは、都心にできた森の学校です。みんなが助け合い、支えあい、互いに同じひとつの未来を見つめる力を学べる場所をめざします。老いも、若きも。はじめての来館者もリピーターも。インストラクターも区の関係者も。エコプラザという未来学校の中では、みんながひとつ。

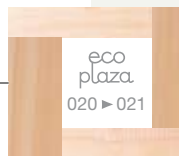
忘れてはならないのが、この地が、かつて神明小学校だったこと、あるいは前エコプラザが鞆絵小学校だったこと。その昔、慶應義塾や攻玉社も、この地に学び舎を設けていた時代がありました。そんなかけがえのない学校の記憶や思い出も大切にします。エコプラザで使用される椅子のほとんどは、学習椅子や工作椅子をリファインしたものです。木のぬくもりとともに、おじいちゃんやおばあちゃんたちが使った道具をシェアする人のぬくもりを感じてください。



共観するハコ。
BOX OF EMPATHY

愛する—それはおたがいに向かいあって
見つめることなく、一緒に同じ方向を
見つめることである。「星の王子様」の作
者、サン・テグジュペリの言葉ですが、こ
れこそ「エコの視点」と考えます。
それを「共観」と呼びましょう。おうおう
にして、見つめあうだけの共感の問題解
決に向きませんが、みんなが一緒に同
じ方向を見つめる共観の先に、きっと地
球の未来の姿が浮かびあがります。もち
ろん、その眼差しには愛があります。
エコプラザでは3つのキーワードを掲げ
ます。いま、私たちが目を向けるべきエコ
の方向性を明確にします。「CO2フリー」
「オーガニック」「森づくり」という3つの
テーマは、エコプラザの土台となるもの
です。その上に立って、みんなで
地球環境の根本的な問題解決に向かい
ましょう。3つのテーマが少しずつ浸透し
ていくことで、「共観するハコ」は共振を
はじめます。エコムーブメントが前進して
いくバイブレーションを感じてください。

◎ エコプラザのトライカラー。青は空気と「CO2フリー」を、黄色は大地と「オーガニック」を、緑は木と「森づくり」をあらわします。



CO₂フリー CO₂ FREE

家庭やオフィスでのCO₂排出量の削減努力を訴えるだけでなく、エコプラザ自体が「CO₂フリー」をめざします。施設運営に係る電力等によって排出されるCO₂の量を最小限に抑えつつ、効率的で納得の得られるカーボンオフセットを行ない、カーボンニュートラル、あるいは自分が出したCO₂をゼロにする以上の貢献をする「カーボンマイナス」の実現に向かいます。館内のいろんなところに、オリジナルの「CO₂FREE」マーク※が顔を出します。バリアフリーという言葉が公共的な場所では当たり前になったように、CO₂フリーをエコプラザは当たり前にします。エコプラザからはじめて、どんな場所でもCO₂フリーが当たり前の取組みになるように。

※ エコプラザオリジナルのCO₂フリーマーク。いま、このマークにある数字の意味は、実際にこの小冊子(計500部)の製造工程で排出したCO₂をオフセットし、CO₂フリーを達成していることを示します。小冊子の印刷・加工・配送において発生した排出量63kgをオフセットするにあたって、100kg分の削減を行いました。つまり、排出したCO₂をゼロにする以上にCO₂削減に貢献していることを証します。

CO₂省エネカウンセラー

エコプラザで受講することで得られるオリジナルの資格のひとつ。講座では、温暖化やエネルギー問題について正しい知識を学びつつ、各家庭やオフィスで実際にどことなくふうをすればどれだけCO₂の排出量を減らせるか、具体的なカウンセリングを行なえる人材が育つことを目的とします。



オーガニック

KEEP ORGANIC

そのワインはオーガニックですか？ そのコットンTシャツはオーガニックですか？ その塗料はオーガニックですか？ 衣食住すべてにわたってオーガニックであることにこだわる人が増えています。本物志向の人が増えています。そもそもオーガニックには「本来的な」という意味があります。そのオーガニックな追い風を、もっと強く、もっと遠くへ運ぶことがエコプラザのミッションです。さらに、自分の健康のために良いものを選択するという発想ではなく、自分の選択が地球環境に負荷をかけることがないように、自分の選択が将来の子どもたちの健康を損なうことがないように、心がけ行動することが、エコプラザの考えるオーガニック(本来的)なオーガニックです。

◎写真はオーガニックコンシェルジュの岡村貴子さん。

オーガニックライフスタイリスト

エコプラザで受講することで得られるオリジナルの資格のひとつ。講座では、日本におけるオーガニックのイメージを一変させた岡村貴子さんをコーディネーターに迎え、食や農だけではなくライフスタイル全般におよぶオーガニックの意義と実践を、生活者の目線で学べる機会を提供します。



森づくり MORE TREES

音楽家の坂本龍一さんが「more trees」という活動をはじめました。「MORE TREES—もっと木を」という呼びかけは、あらゆる環境への取組みを包括する、もっとも究極のメッセージではないでしょうか。森づくりという平易な日本語には、このシンプルな英語をあてるのがもっとも適切であると考えます。

港区が地球温暖化対策として、あきる野の森林整備事業に取り組んだことは大きな可能性の始まりです。CO2の吸収源としての重要性はもちろん、生物多様性や水がめとしての機能を思うとき、森の存在の大きさは計り知れません。千年後の人類のために残せるインフラは森のほかにはありません。文明論的あるいは哲学的なアプローチからも森づくりの意味と価値を掘り下げます。

森づくりプランナー

エコプラザで受講することで得られるオリジナルの資格のひとつ。講座では、坂本龍一さんの「more trees」とも連携しながら、多彩に、森づくりのための人づくりを行ないます。国連に提出する事業計画書を書けるほどの高度な知識とフィールドワークの能力が身につくことをめざします。



エコプラザというメディア。 ECO-PLAZA AS MEDIA

エコプラザはメディアです。
この場所でさまざまな出会いを仲立ちし、
この場所にさまざまなヒト、モノ、コトが集結し、
この場所からさまざまな情報や日々のニュースや
希望のメッセージを送り出します。
いろんなツールがメディアとなって、
あなたとつながります。

リアルなメディアとしてのエコプラザを支えるのは、バーチャルなオンライン上のエコプラザ。公式ホームページ<eco-plaza.net>は、日々新しいエコプラザをキャッチアップします。

セミナー、ワークショップや展示など、リアルなエコプラザは、毎日プログラムがもりだくさん。好奇心旺盛な子どもにとっても、おしゃれ好きの若者にとっても、元気でいたいお年寄りにとっても、きっとアピールする企画に出会えます。イベントの最新情報は、ホームページで。またホームページには、エコプラザの過去、現在、未来を網羅しながら進化する、環境学習にかかわるデータベースがあります。料理の仕方しだいで、なんだって環境学習教材になりえます。たとえば俳句の勉強だって環境学習。日一日と醍醐味を増していく、そこは発見と驚きのつぼです。

エコプラザ公式ホームページ
<http://www.eco-plaza.net>

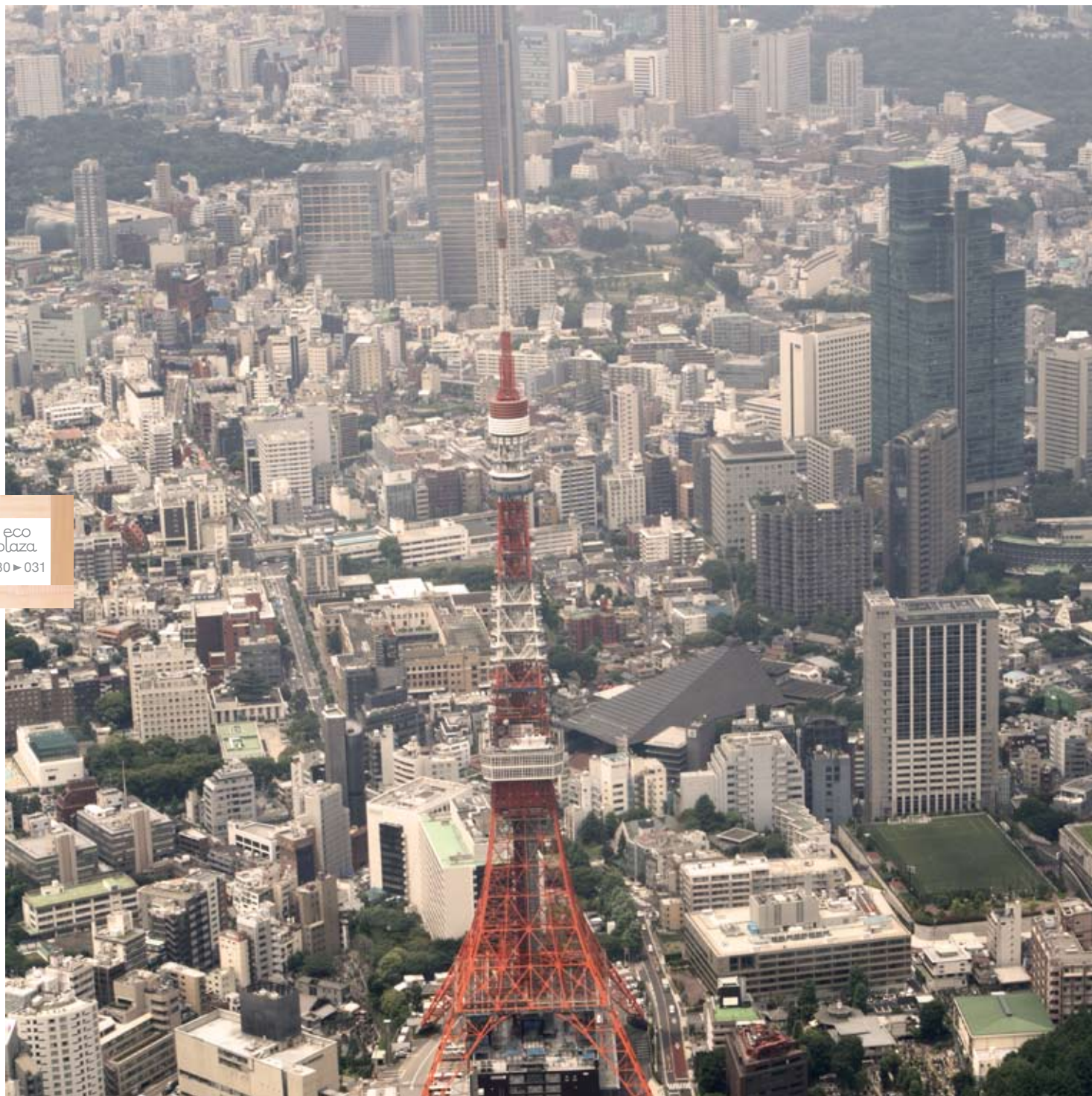


eco
plaza
028 ▶ 029

エコを知らない 「品格」なんて。

NO ECO, NO STYLE

品格がブームです。多くの方が上質の暮らしを志向します。ラグジュアリーという言葉も身近になっているようです。事実、港区には、そんな方が大勢いらっしゃいます。そんな世の中の傾向は、決してエコと無縁ではありません。それどころか、大いに関係します。もしそこにエコがなければ、残念ながらそれは、一人よがりの自己満足にすぎません。エコがなければ、中身はひ弱な表面的なゆたかさに終わるでしょう。品格への階段は、まずはエコからはじまるべきです。エコからはじめるのが近道です。誰よりもエコを知っている。エコを実践している。そんな人こそ本物のリッチ。エコを学ぶことは、他者を知りつつ自分を磨くこと。いつでも、そんな自覚をもって努力を惜しまない素敵な品格者たちと出会える場でありたい、本物志向のエコプラザです。



eco
plaza.
030 ▶ 031

エコじゃない 「生活」なんて。

NO ECO, NO LIFE

世の中の多くの広告は、「もっとよい生活を」と手を変え品を変え訴えかけます。いよいよ便利で効率的な社会になってきましたが、それだけハッピーが増えたかどうかはわかりません。むしろ、周囲の空気にあわせることの息苦しさに耐えられない人が増えているようにも思えます。地球環境だけでなく、人間の生活環境も悪化しているようです。ライフスタイルを変えよう。多くの環境運動がそう呼びかけます。でも、そもそも生活ってなんでしょう？ エコを知らなかったという以前に、わたしたちは生活について実はなにも知らなかったのかもしれない。エコと生活は限りなくイコール。エコライフと構えるより、ふつうに生活できたらそれでいい。「あっ、そうか。生活ってエコだったんだ!」そんな気づきをたくさんお届けしたいエコプラザ、ほぼ毎日オープンです。